



JSQC ニュース

No.261

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ICQ 05-Tokyo「課題」と「場」の提供
- 2-私の提言 若手支援のプログラムを活用しよう
- 2-ルポルタージュ 第302回中部事業所見学会ルポ
- 3-授賞おめでとうございます
- 4-4月の入会者紹介/行事案内

ICQ 05 - Tokyo「課題」と「場」の提供

品質国際会議実行委員会 委員長・前田建設工業(株) 取締役名誉会長 前田 又兵衛

品質の進化への「場の提供」である。来る9月13日から16日にかけて、東京にてICQ（品質国際会議）05-Tokyoが開催される。1969年に東京で実施した会議を第1回として、今回は第13回目を迎えた。会議は、3年毎に米国・欧州との持ち回りで行われ、日本では9年ぶりの開催になる。世界の品質に関するエキスパートと経済界の代表者が一堂に集う絶好の機会を最大に活かすべく、組織を挙げて、全力を傾け準備を進めている。

会議のプログラムは、品質国際会議組織委員会の奥田碩名誉委員長による開会の辞に始まり、中山成彬文部科学大臣より御挨拶を賜る予定である。基調講演では、Dr. A. V. Feigenbaum氏、東京理科大学の狩野紀昭教授、特別講演では、トヨタ自動車(株)の豊田章一郎名誉会長、サムスン電子のY. W. Lee副会長が名を連ねる。続いて、コマツの坂根正弘取締役社長など世界各国の経営者によるトップマネジメントセッションも予定され、さらには30カ国以上の国々から180件以上の論文発表が申し込まれている。

会議のテーマは、“Quality Evolution-Way to Sustainable Growth-”であり、バリューチェーン、資源の管理、手法活用、実践例、品質管理マ

ネジメントといった側面から品質の進化を模索する。一方、会議開催前の2日間は、品質管理の著名な講師による理論の講義に、一流企業での成功事例を組み合わせたセミナーも織り込まれている。将に、この会議は世界各国との情報共有の場であり、未来への持続的成長に向けた課題を浮き彫りにする機会と捉えたい。また、万国博覧会「愛・地球博」と同時期に開催することにより、国際的な友好と親善を促進することもねらいとしている。

同時に、ICQ 05 - Tokyoを日本再生への重要な契機に位置付けたい。優秀なる技術・技能を持つ日本。“Made in Japan”を代名詞として超優良品質を誇りに世界を席卷した日本であるが、未だ重大事故が途絶えない。

1980年7月、NBCで制作された番組『If Japan can, why can't we』が、NHKより日本で放映された。「日本にできて、何故アメリカが」という内容であり、QCサークル活動を始め地に付いた日本の品質管理が紹介されていたが、久しぶりに見たビデオを恥ずかしくて正視すら出来なかった。番組の最後にNHKのアナウンサーが、「5年後、10年後に日本が同様の番組を作らなければいいが。」と述べた状況が、正夢となってしまった。

決して米国を、外国を礼賛・称賛するのではない。謙虚に他国を学ぶ姿勢、繁栄に驕ることなく素早き対応で戦略を常に工夫する姿勢に学ぶべき点がある。1980年代の米国再生委員会は、謙虚に日本を研究し、理解し計画を立て、そして米国流に咀嚼し、着実に実行したのである。

今こそ、会議に集う世界のトップレベルの事例に学び、グローバルな視点を研鑽せねばならない。そして、アウトプットとして課題を提供することで、各々が企業に、職場に、現場に帰り、経営層、管理者、現場の全てが高き目標に一体となって挑戦し、共に考え、改善に、改革に、汗をかくことこそ、新たな価値を創造する土壌になると確信している。そして、日本が競争力再生に向けて、品質管理を真摯に、一丸となり、且つ全力を挙げて取り組んでいる姿勢を世界に発信したい。

ICQ 05 - Tokyoは、品質の進化に向けた「課題」と「場」を共有するべく、世界各国から1,000人が集うことを目標にしている。価値と情報を分かち合うために、一人でも多くの方々の御参加を賜り、来る9月に会場である新宿京王プラザホテルに集うことを心より期待し、お願いを申し上げたい。なお、詳細情報は、日科技連ホームページ (<http://www.juse.or.jp/>) にアクセスされたい。

私の提言

若手支援のプログラムを活用しよう

早稲田大学理工学術院 教授 棟近 雅彦
JSQC庶務担当理事



去る4月17日に、JSQCインカレゼミ（インターカレッジゼミナール）のキックオフミーティングが行われた。学生中心の若手研究者数十名と、JSQC理事会からは飯塚会長と庶務委員長の筆者が出席した。インカレゼミで行う活動はこれから徐々に決定されていくが、交流会、研究内容への指摘・アドバイス、最新動向などの情報提供、企業と大学の共同研究支援などが提示されている。品質管理に関わる研究を行っているいろいろな大学の学生が集い、お互いに刺激を与える場

である。

JSQCが支援するこのような若手の交流会としては、毎年夏に行ってきたヤングサマーセミナーがあった。このセミナーではかなり活発な議論が行われ有意義な会合であるが、年に1回の合宿形式のものであり、「もっと頻度を増やして定常的な活動にできないか」という飯塚会長の提案を受けて、インカレゼミが発足することになった。

上述の活動は、品質管理界の将来を担う若手の育成・活性化を支援するプログラムである。若手の人材不足は、JSQCおよび品質管理界にとって深刻な問題である。これからのJSQC、品質管理界を支える優秀な若手を育てることが、筆者を含めた教育者の重要な責務であり課題である。

JSQCとしては、若手が積極的に学会に参画し、研究活動を活性化するための支援プログラムをいくつか用意している。学生は年会費を安くした準会員として入会でき、準会員は研究発表会、懇親会の参加費が安く設定されている。ヤングサマーセミナー、インカレゼミでは経済的に支援を行っている。また、研究支援のための研究費助成制度もある。研究費助成制度は、申請のあった中から毎年5名に対して各10万円の研究費を支給するものである。

これからもJSQCとして支援プログラムを充実していかなければならないが、問題はこのような支援プログラムを知らない人が多いということである。学生自身もそうであるが、指導教員にもあまり知られていない。ホームページ、メールニュース、JSQCニュースなどで適宜広報しているので、特に大学の教員である会員の方々は、これらの支援プログラムを学生に知らせていただき、若手育成の一助として活用していただくことをお願いしたい。

第302回中部
事業所見学会
ルポ

(株)樹研工業
本社工場

去る2005年4月22日(金)に第302回事業所見学会(中部支部第74回)が、豊橋市の(株)樹研工業本社工場にて開催された。『最近のナノ切削事例(超精密金型切削)』をテーマに、39名の参加となった。

樹研工業は1965年に松浦元男氏(代表取締役社長)によって設立され、今ではパウダーギアと名付けられた世界最小の歯車(1/100万g、直径0.147^{mm}、幅0.08^{mm})の開発に成功し、従業員約100名の規模ながら極小精密部品の世界トップメーカーにまでなった企業である。

工場見学の前に「新技術開発と管理技術定着」「やってはいけない競争」「ISOマネジメントシステムの落とし穴」など経営に対する独自の考え方を松浦社長からお聞きした。30年以上前のある品質問題をきっかけに徹底した生産記録の管理を開始し、

ISOのマネジメントレベルをはるかに上回るトレーサビリティが整備されている。「真似しようにも真似できない技術」が価格競争に巻き込まれない力ぎでもある。

工場見学では、世界最小の歯車を量産できる超小型高速射出成形機とその実演を目の当たりにし、プラスチック製品の常識を越えた微細加工に感嘆させられた。実際に動くこの歯車の用途はまだない。しかし、この技術力こそが樹研工業を比類のない存在としている。工場内にはことさらパフォーマンスを強調するような掲示物はなく静かで穏やかな空気が流れ、それが一層技術者一人ひとりの自信・誇りを際立たせるものを感じられた。

見学後の質疑応答では、松浦社長の人材育成に対する考え方、それに応え成長していく従業員の姿をご紹介いただいたが、樹研工業には一般的な人に対する「管理」というものが非常に少ない。それでも従業員の高いモチベーションと極限の技術に、ものづくり・品質管理とはあらためて人づくりであることを痛感させられた。

鈴木 信滋(株)魚国総本社)

おめでとうございます

第7年度会長・豊田章一郎氏がデミングメダル受賞 第22年度会長・近藤良夫氏がASQ名誉会員に

去る5月16日にアメリカのシアトルで開催されたASQ（アメリカ品質協会）の年次大会で、当学会の名誉会員で元・会長である豊田章一郎氏（トヨタ自動車㈱名誉会長）ならびに近藤良夫氏（京都大学名誉教授）が受賞されました。豊田氏はデミングメダルを受賞され、近藤氏は名誉会員に指名されました。

豊田章一郎氏が受賞されたデミングメダルは、デミング賞で知られるW. E. Deming博士の功績をたたえ1996年に創設された賞で、統計的考え方とマネジメントの両者を結びつけ、製品またはサービスの品質向上に傑出したリーダーシップを発揮された個人に与えられる賞です。デミング博士の経営原則の適用を通して、トヨタ自動車での継続的改善へのコミットメントおよび品質の戦略的重要性に対するコミットメントならびに社会と環境の福祉



の改善に向けた働きにおけるリーダーシップの発揮ということが同氏の受賞理由です。豊田氏は、受賞記念講演の中で「デミング賞への挑戦とその実践の継続が、今日のトヨタ自動車を築いてきたものと思っております。」と述べられました。なお、豊田氏は日本からの初めてのデミングメダ

リストです。

近藤良夫氏が推挙された名誉会員は、ASQが与える最高の荣誉です。このことは、ASQが創設されてから58年が経過しますが、近藤氏は23人目に過ぎないということからも分かります。ヒューマンモチベーションおよびTQMの分野における思想リーダーとしてグローバルな品質コミュニティへの他に例を見ないご貢献、世界の至る所での品質の推進に対するご貢献が指名理由に挙げられています。IAQ（国際品質学会）のPresident, Chairmanを務められるなど、長年にわたる世界の品質の発展に対するご貢献が今回の荣誉に繋がりました。近藤氏は、"Quality is interesting, challenging and exciting. It is delighted, indeed"と受賞記念講演を結ばれていました。なお、日本からはこれまでに石川馨氏と田口玄一氏が、それぞれ13人目、17人目の名誉会員に指名されています。



当学会のお二人の元・会長の今回の受賞に対して心からお祝いを申し上げます。

清水祥一氏が瑞宝中綬章を受章

本学会名誉会員で名古屋大学名誉教授・工学博士の清水祥一先生は、平成17年度春の叙勲に於いて標記の勲章を受章されました。

先生は、世界で初めて生物反応工学を確立し、国際品

質アカデミー・アカデミシアン、デミング賞本賞などを受賞されています。

先生の益々のご活躍を期待するとともに、心からお祝い申し上げます。

司馬正次氏がEOQのGeorges Borel Medalを受賞

4月25～27日、トルコのアンタリアで開催された第49回EOQ Congressにおいて、MIT客員教授の司馬正次氏がWolfgang Kaerkes EOQ会長より賞状とメダルを受与されました。

この賞は、きわめて顕著な貢献をあげた個人に与えられる賞で、選考の基準は、品質に関するコンセプトや知識などをいかにヨーロッパ諸国に伝え貢献したかです。ハンガリーでの活動、フランスでのTQM手法の国家的

普及活動、スペインでの教育活動、イタリアでのTQMの普及、また、EOQのサマーキャンプでの貢献、International adviserとしての貢献などが評価されたものです。

この賞は、Georges Borel氏の功績にちなんだ賞であり、現在までの受賞者は5名です。ヨーロッパ以外からの受賞者は2人目とのことで、大変荣誉あることです。受賞おめでとうございます。

2005年4月の 入会者紹介

2005年4月11日の資格審査において、下記の通り正会員40名、準会員5名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員40名) 廣瀬 民雄(元・パナソニックモバイルコミュニケーションズ) 鷲崎 弘宜(国立情報学研究所) 川本 一男(医療法人香徳会) 中島 武(品質保証総合研究所) 羽根田 修(日本ビジネス革新コンサルティング) 平田 敏之・川原 啓一・池内 淑人・宮川 直治・三神 徹・笹尾 逸郎(日本品質保証機構) 野村

直裕(高知カシオ) 平山 雅之(東芝) 松田 祐邦(ビーエスアイジャパン) 北村 充晴(プライド) 奥山 孝司(住金マネジメント) 原田 雅(デンソー) 山口 文彦(アカセ技術事務所) 堀 雅司(ベタリービング) 鈴木 昌栄(建材試験センター) 潮田 幸男・今福 繁久(日本海事検定キューエイ) 八尋 絵美(武蔵工業大学) 黒田 伸弘(三重県環境保全事業団) 土屋 博・大谷 篤雄(アイキューエム) 大前 昇(アイエムジェー審査登録センター) 土田 誠・福田 丈雄(日本検査キューエイ) 田附 喜幸(セキユアランス) 石堂 清雅(和商工) 景井 和彦(ピーブイキューアイジャパン) 犬飼 直人(白楊会病院) 清水 浩(清水テクノス) 青野

比良夫(防衛調達基盤整備協会) 島田 賢治(東武鉄道) 齋藤 祥三(日本水道協会) 南 賢治(日本発条) 成田 淳一(日立国際電気) 蔵富 一忠(中小企業診断士) (準会員5名) 堀江 則之(東京情報大学) 陳 柏廷(東京医科歯科大学) 角田 猛・椎名 宏樹(電気通信大学) 小久保 雄介(成城大学) (賛助会員1社1口) 東武鉄道 正会員: 3038名 準会員: 112名 賛助会員: 172社199口 公共会員: 22口

行 事 案 内

第103回シンポジウム(本部)

テーマ: ISO9001/9004の最新動向
次期改訂に向けて

日 時: 2005年7月4日(月)10:00~17:00

会 場: 日本科学未来館 みらいCANホール
プログラム:

「ISO9001/9004の2008年改訂をめぐる」
飯塚悦功氏(東京大学)

「TC176/SC2報告 ISO9001改訂の仕様」
平林良人氏(株)テクノファ

「TC176/SC2報告 ISO9004改訂の仕様」
住本 守氏(製品評価技術基盤機構)

「JIS/TR Q 0005(改訂版): 持続可能な成長の指針」

飯塚悦功氏

「JIS/TR Q 0006(改訂版): 自己評価の指針」

福丸典芳氏(南福丸マネジメントテクノ)

定 員: 300名
参加費: 会 員5,000円(締切後5,500円)
非会員7,000円(締切後7,500円)
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切: 2005年6月27日(月)

申込方法: ホームページから申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第104回シンポジウム(中部)

テーマ: 「品質を中核としたものづくり大
国日本の復活」~Q-JAPAN構想~

日 時: 2005年7月13日(水)10:50~16:55

会 場: 中電本店ビル 中電ホール
申込締切: 7月7日(木)到着分まで

定 員: 200名
参加費: 会 員5,000円 非会員7,500円
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込方法: 中部事務局までお申し込みください。

第308回事業所見学会(本部)

日 時: 2005年7月19日(火)13:30~16:00

見学先: THK(株) 甲府工場
甲府駅からタクシー乗合

定 員: 30名(会員優先)
参加費: 会 員3,500円 準会員2,500円

非会員4,500円 一般学生3,000円
当日払い(乗合タクシー代含)

申込締切: 7月15日(金)到着分
同業他社はご遠慮願います。

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAX
にてお申し込みください。

第95回講演会(中部)

テーマ: 「日本のものづくり」における競争
優位を確保するために - ISO9001の
有効活用と改善力アップ -

日 時: 2005年7月20日(水)13:00~16:30

会 場: D-Square B1階スクエアプラザ
申込締切: 7月6日(水)到着分まで

参加費: 会 員4,000円 非会員5,000円
準会員2,000円 一般学生2,500円

定 員: 100名
申込方法: 中部事務局までお申し込みください。

ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座(本部)

- 毎月1回6回開催・会員優先 -
時 間: 毎回9:30~12:30

講義1時間30分、演習1時間、質疑
CPDの証明時間は3時間です。

会 場: 日本科学技術連盟
東高円寺ビル2階講堂

プログラム:
第4回 7月23日(土)
TQMの活動要素(2) - 方針管理と改善活動

担当: 村川賢司氏(前田建設工業(株))

第5回 8月27日(土)
TQMの活動要素(3) - 品質保証と新製品開発

担当: 棟近雅彦氏(早稲田大学)

第6回 9月10日(土)
標準化をめぐる最近の動向

担当: 矢野友三郎氏(経済産業省)

定 員: 毎回先着100名
参加費: 会 員4,000円(各回)
非会員8,000円(各回)

申込締切: 各回とも開催の1週間前

申込方法: ホームページから申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第105回シンポジウム(本部)

テーマ: 企業の社会的責任(SR)を考える
日 時: 2005年9月2日(金) 10:00~17:00

会 場: 早稲田大学 57号館202教室
プログラム:

特別講演: SRとは何か - その方向を探る
松本 恒雄氏(一橋大学)

基調講演: SRの潮流とISO26000
矢野友三郎氏(経済産業省)

事例1: リコーにおけるSRの取り組み
事例2: ミツエーリンクスにおける

SR導入の成果と課題
事例3: SRにおける人権の側面を考える

定 員: 300名
参加費: 会 員5,000円(締切後5,500円)
非会員7,000円(締切後7,500円)
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切: 2005年8月26日(金)

申込方法: 同封の参加申込書にご記入の上、
本部事務局までお申し込みください。

ホームページからもお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第78回研究発表会(中部)

日 時: 2005年9月7日(水)10:15~17:15
会 場: 朝日大学

申込締切: 8月26日(金)
申込方法: 同封の参加申込書にご記入の上、
中部事務局までお申し込みください。

行 事 申 込 先

本 部: TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org
事務局携帯: 090-9128-7979
中部支部: TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail: nagoya51@jsa.or.jp